

(4) 工事における社会的コストの低減
工事におけるリサイクルの推進 (施策番号)

国土交通省直轄ダム工事で初のゼロ・エミッション

中国地方整備局苫田ダム工事事務所 苫田ダム建設工事

【施策の概要】

「ゼロ・エミッション」とは、廃棄物の最終処分量をゼロにするということであり、人口爆発や資源枯渇に対応し、地球環境を守るために生産・消費活動の課程で廃棄物を出さない循環型産業構造システムの開発を目指すものです。

「ゼロ・エミッション」は、これまで一般に廃棄物処理施設の整った都市部において、建築工事を中心として行われてきました。苫田ダム建設工事は地方部の大型土木工事であり、平成13年度から本格的に「ゼロ・エミッション」の実現に向けて活動を開始します。

本工事では、これまでも廃棄物の分別収集を柱に混合廃棄物の減量化を図り、コンクリート、アスファルト塊などは中間処理での再生利用、堤内構造物のプレキャスト化で型枠材の低減などの活動を行っており、再生利用率は約99%です。

今後の活動は、これまでの活動を軸に、R1(Reduce発生抑制)、R2(Refuse搬入抑制)、R3(Reuse再利用)、R4(Recycle再生利用)、R5(Return再生材購入)の5 R活動を展開して再生利用率100%を目指します。

【施策のポイント】

- ・伐採材はチップ化・堆肥化して、濁水処理設備から発生した脱水ケーキと混合し植栽用土として場内で使用します。
- ・コンクリート塊、アスファルト塊は破砕して砕石、路盤材として場内で使用します。
- ・堤内構造物をプレキャスト化し熱帯材型枠の使用量を低減し、かつ発生した型枠の端材などはチップ・堆肥化により上記の植生用土の材料として使用します。
- ・紙くず・金属くずは再生紙、再生金属などの資源材料として再生委託します。
- ・廃プラスチック類はリサイクルルートの開拓により、熱原料としてサマルサイクルを行います。
- ・混合廃棄物は上記の品目に分別収集の徹底を図り、混合廃棄物の発生を防ぎます。
- ・その他建設副産物としての発生土は、事業全体での流用のほか、護岸、石積み、路盤などの材料として使用します。

【施策のフロー図】

